

実践⑥ 枕崎市読み聞かせグループ連絡会

枕崎市内には読み聞かせボランティアが7グループあり、各校区の小・中学校や幼稚園、保育園、高齢者施設等で自主的に読み聞かせ活動をしていました。グループの継続や資質の向上を目指すためには、それぞれのグループをネットワーク化し、相互に連携する必要があると考え、平成21年に「読み聞かせボランティアグループ連絡会」を発足させました。

図書館が事務局となり、年3回、定例会とスキルアップ研修会等を実施しています。

定例会では主に、活動状況報告やお薦めの本の紹介など絵本に関する情報交換をしています。活動をしていく上でのそれぞれのグループが抱える悩みや問題などを共有し、解決策を考える機会にもなっています。

スキルアップ研修会は、絵本作家や絵本専門士等の専門家を講師に招いて実施しています。ファーストブック・自然科学の絵本・SDGsをテーマにした絵本などに関する研修、ブックトーク研修の他、今年度は、技術面の向上を図るために、アナウンサーを講師に招いた効果的な読み方の研修などを実施しました。ほとんどのメンバーが読み聞かせボランティア歴10～20年という方々ばかりですが、皆、「スキル向上を目指したい」と、毎回熱心に研修会に参加しています。

この連絡会が、地域で長く活躍できているのは、公立図書館と教育委員会生涯学習課の担当者が定例会に参加し、読み聞かせボランティアの活動内容や実態を情報共有できているからではないかと思っています。様々な場面でお互いに連携・協力することができています。

小・中学校と読み聞かせボランティアグループとの調整だけでなく、市の広報紙に活動紹介や会員募集等を載せるなど、官民協同で地域の読書活動に取り組んでいます。

コロナ禍で活動の機会は減りましたが、私たち読み聞かせボランティアは、本を好きな気持ちや楽しさなどを対面で直接声を届けていることに意味があると考えています。

読み聞かせ活動を通じて、本との出会い、人との出会いを大切に、喜んでくれる方々の笑顔を活動の励みにしながら、これからも気長に活動を続け、後々に引き継いでもらえるよう相互扶助の精神で継続していきたいです。

